



原村公式ホームページのトップページ

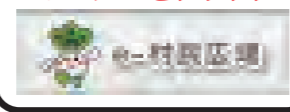
詳しくは、原村公式ホームページをご覧ください。村づくり戦略推進室企画係へお問い合わせください。(電話 79-7942)

### 電子掲示板「はらむらeー村民広場」 4月1日から再開します

現在一時休止している電子掲示板「はらむらeー村民広場」を、4月1日から再開します。  
電子掲示板は、参加者が自由に文章を投稿し、書き込みを連ねていくことで、意思や情報などを受け取ったり伝え合ったりすることができるとのことです。  
話し合うテーマは、原村の自慢できるもの、残しておきたいもの、おすすめスポット、おいしいお店、村の施策など「原村に関すること」全般です。

パソコンを利用できる方であれば、どなたでも掲示板に投稿したり、テーマを申請することができます。  
村内にお住まいの方をはじめ、全国各地のみなさんとの意見交換や、情報交換を通じて、原村の魅力を再発見してみませんか。

このバナーをクリック!



### COLUMN



村づくりの  
三葉草談

原村は自他ともに認める野菜王国と誇りに思っています。高原の強い日光を受けて育つ野菜は栄養価も豊富で、人々の食卓を豊かに満たし、健康を維持する上で大変大きな役割を果たしています。野菜嫌いで肉食ばかり多くしていますと酸性体質となり、体の栄養のバランスが崩れ、やがて健康な生活が保てなくなります。  
食生活にとって大切な野菜ですが、楽では育ちません。農家の野菜栽培の苦心は、土づくり、施肥に始まり、作目によってマルチかけ、並行して苗づくりそして定植、敷薬も作目により、或いは播種する作物によっては間引きも、肥培管理また防除、支柱を要する物や芽かき、培土、作目によって作業内容や手順も異なり、何よりも適期の作業が求められ、休まる暇とありません。生きていく物を育てる訳ですから、瞬時でも目を離したり、愛情を欠かすと良

い物は出来ません。  
この様に苦勞の連続ですが最後の決め手は陽気です。太陽の恵み、自然の恵みです。太陽の恵み、自然の恵みが、少しでも多く自分の方を向いてくれることを願って、勤勉の徒は励み続けるのです。それは恰も選民への道を歩んでいるかの様であります。  
ところが最近、「野菜工場」なるものを聞きます。温湿度管理された無菌の工場内で、人工光線によって野菜を育てるというのです。神をも怖れぬ所業と言いたくありません。確かに野菜は育つでしょう。無菌のものかも知れませんが、しかし折角ある太陽の恵み、自然の恵みを利用せず、必要でもないエネルギーで地球温暖化を促進して、人類滅亡の方向へ向かわな

原村長 清水 澄

## 「原村DE婚活」事業発足! 独身者が結婚へと導くための体制を整え、結婚相談や地域の 枠を超えた出会いの場づくりを支援します

### 原村が結婚推進事業に取り組む必要性

年々と少子化が進んでいく今日、全国的に進む「少子化・未婚率上昇」に歯止めをかけなくてはならないとされています。しかし、結婚支援については個人的要素が強く、行政が支援するには難しい問題を多く抱えているため、自治体による結婚推進事業を実施していくには、困難とされていました。

世間では、結婚活動を「婚活」と略してさまざまなメディアで取り上げられるようになり、結婚するためには就職活動同様、結婚活動が必要であると世間に認識されるようになりました。しかし、社会環境の変化やライフスタイルの多様化などから、現代ではなかなか結婚がしにくいのが現状で、昔のように適齢期になれば、それとなく自然に結婚する、という時代はなくなってきています。そのことから、多くの自治体では、結婚を望む独身者を支援し、少子高齢化、人口減少等の対策として結婚推進事業に取り組んでいます。

年齢	男性(%)	女性(%)
20~24	94.4	92.0
25~29	75.0	55.6
30~34	44.8	23.4
35~39	28.6	11.9
40~44	20.0	8.1
45~49	12.7	4.8
50~54	13.5	4.6
55~59	11.2	4.9

原村の未婚率(2005年国勢調査から)

原村では、村内の独身者が結婚へと導くための支援体制を整え、サポートする側の人材育成を図り、独身者自らが結婚に積極的に取り組めるようなセミナーを実施しながら、結婚相談や出会いのきっかけづくりなどを支援します。

2005年の総務省「国勢調査」では、全国の未婚率(結婚したことのない人—離婚、死別を除く)について、25歳から29歳の男性は71.4%、約7割が未婚。女性は59.4%、約6割が未婚。というデータが出ました。当村では、25歳から29歳の男性は、75.0%。女性は55.6%。という状況で、男性は、前回(2000年)に比べ、3.6%も上昇しています。当村においても、結婚推進事業を展開し、年を追うごとに右肩上がりの未婚化に歯止めをかけた

### 結婚に対し前向きに考える“意識改革”に重点を置き、 「推進組織」を構築し、「自分磨き」をサポートする。

#### 【推進内容】 ★ 4つの柱 ★

##### ①婚活支援組織(体制)の整備

昔のように嫁や婿を世話するいい意味での近所の“世話焼きおばさん”のような人がなくなった今日、交流の場だけの支援ではなく、婚活向けの自分磨きの指導や婚活アドバイザー、結婚支援のカウンセリングができる支援組織(体制)を整備します。

##### ②人材育成

結婚支援は非常にデリケートな面もあり、指導者によっては結婚への意識を薄めてしまう場合もあります。そこで、支援する側(支援員)の人材育成に取り組めます。

##### ③セミナー(カウンセリング)の開催

今まで結婚推進支援事業に取り組んできて、村内には独身者は多くいるはずが参加者の数が少ない状況でありました。そこで、独身男性・女性の結婚への意識を高めるセミナーを開催し、併せて恋愛・婚活に対する悩みを解消させ、恋愛・結婚に対する自信を身につけることにより婚活の成功へと導かせます。

##### ④「HARA TRENDY CLUB」

一般公募及び各種団体等から選出された者による支援員(マリッジサポーター)と、村に個人登録してもらった出会いを求める独身男女が組織。

サポートセンターと協同で、出会いの交流イベントを企画し、出会いの場を創出します。



## 村づくり通信

村づくり戦略推進室  
村づくり係からのお知らせ

TEL.79-7922 (直通)  
E-Mail:muradukuri@vill.hara.nagano.jp



### 「HARA TRENDY CLUB」登録会員募集!

「HARA TRENDY CLUB」(ハラ・トレンディークラブ)は、原村に在住・在勤する「20歳以上の独身者」。また独身者をサポートする「マリッジサポーター」を募集します。入会費、年会費は無料。独身者とサポーターと一緒にさまざまなイベントやパーティを企画して楽しんでみませんか?講演会やセミナーも開催予定です。まずはお気軽にご相談ください。※秘密は絶対に守ります。

●原村マリッジサポートセンター(村づくり戦略推進室 村づくり係)  
電話79-7922(村づくり係) trendy-club@vill.hara.nagano.jp

### 白いタヌキ お披露目



12月28日、富士見町在住の樋口誠さんが、白いタヌキの剥製を役場で披露しました。樋口さんは、昨年10月15日の夜、村内で交通事故に遭った白いタヌキを発見し、村や諏訪地方事務所から了解を得て引き取ったそうです。以前から、時々白いタヌキを目撃しており、何か縁を感じたそうです。また、白いタヌキは縁起が良いということで、村内の方にもぜひ見てもらいたいということで、1月に行われた商工会主催の賀詞交歓会でも披露されたそうです。

### 原小リコーダー合奏団 優秀賞を受賞



原小学校リコーダー合奏団は、11月28日に東京都江戸川区総合文化センターで行われた「TBSこども音楽コンクール東日本大会」Bブロックで優秀賞を受賞し、清水村長へ報告しました。この東日本大会へは、長野県大会で最優秀賞を獲得し、長野県代表として出場しました。リコーダー合奏団は4年生から6年生の16名で構成され、その内8名が6年生ということで、最後の大会で優秀の美を飾ることができました。

### 津金雀仙自詠詩碑除幕式



10月17日、原村歴史民俗資料館敷地内（八ヶ岳美術館）で行われた津金雀仙自詠詩碑除幕式には、津金孝邦さん（雀仙の子供）が会長を務める全国の凌雲会会員や関係者およそ100名の方が参列しました。これは八ッ手出身の津金雀仙の自詠の詩と書の碑を、凌雲会 津金孝邦さんが原村に寄贈したものです。石碑は、高さ2m80cm、幅1m40cm、重さ3tで、台座も含めると3m80cmとなります。石碑はいつでも見学できます。またこの日は、雀仙の50年目の命日にあたるということで、記念すべき日となりました。



HARAMURA TOPICS

### 第10回日本建築家協会25年賞 受賞記念イベントを開催



2月11日、日本建築家協会が行なっている「25年以上に渡って長く地域の環境に貢献し、風雪に耐えて美しく維持され、社会に対して建築の意義を語りかけてきた建築物」を表彰する「25年賞」に八ヶ岳美術館が選ばれ、受賞記念イベントとして一般見学会とトークイベント「八ヶ岳美術館 建築秘話」が行なわれました。トークイベントには、八ヶ岳美術館の建設に携わった方などが、八ヶ岳美術館を設計した建築家 村野藤吾さんとのエピソードを語りました。美術館の内装（主にカーテン）を行った保科さんは、村野さんと初めて会った時の印象が、先生というよりおじいさんというイメージが強かったことや、村野さんがスケッチブックに描いたラインから、天井のカーテンのデザインが生まれたことなど、施工者として携わった小尾さんは、ドーム形状の連続した建物は今振り返ってみても、最初で最後の仕事だと思つて話していました。また、美術館にある散策路は、村野さんが実際に歩いた所を散策路にしたことなど、当時のことを懐かしむように話していました。当日は、あいにくの雪模様となりましたが、当時の貴重な話や資料に触れ、美術館全体がひとつの作品ということを実感した1日となりました。

### 災害時における飲料水供給等の協力に関する協定を締結



村では、北陸コカ・コーラボトリング㈱と、災害時における救援物資提供に関する協定書を締結しました。これは、村内でライフラインの遮断や、災害が発生した場合、村の災害対策本部等を通じて販売機内の飲料を無償で提供するものです。自動販売機には電光掲示板（メッセージボード）が付いていて、普段は時刻やニュース等が流れていますが、災害時には、災害情報が流れるようになっています。現在、社会体育館入口に設置されていますが、今後は災害時に避難場所となるような箇所への設置を推進していく予定ということです。

### セルリーパウンドケーキ作り



原小学校4年2組では、総合的な学習の時間で、「セルリー」をテーマに学習を進め、1学期には実際にセルリーを育てて収穫を行いました。今後の活動についてクラスで話し合ったところ、セルリーを使った料理を作りたいということになり、原村産のセルリーと米粉を使ったパウンドケーキと浅漬けの2品を作りました。講師には、いきいき農業塾の方が小学校を訪れ、児童たちを指導してくれました。パウンドケーキが焼き上がると、家庭科室には甘い匂いが立ち込めていました。児童たちは、完成したパウンドケーキを食べると「おいしい!」と言って味わっていました。

### 星空の映画祭 4年ぶりに復活



八ヶ岳自然文化園野外ステージを会場に、4年ぶりに星空の映画祭が復活しました。15日間（8月8日～22日）行われ、のべ1,573人の方が訪れました。8月13日には、「ガマの油」が上映され、監督で主演を務めた役所広司さんが舞台あいさつと、上映後には「ガマの油」の制作秘話や撮影方法、そして、今後公開予定の作品について語ってくれました。また、この日は映画祭の中で一番多い約270人の方が来場しました。

### 小池紀元さん旭日双光章受賞



今回、小池さんは、旭日双光章地方自治功労を受章されました。これは、7期28年という長期にわたっての原村議会議員としての活動や、原村の発展に多大なる貢献が認められ、天皇陛下から授与されたものです。小池さんは、農業の傍ら、農業委員を9年、南諏衛生施設組合議会議員や長野県営圃場整備事業では地区の代表として活躍されました。今後も活躍を期待します。

